

[DTP] Adobe CC のインストールポリシー対応のために、DTP データは PDF と一緒に保存しておくべき

みなさん、Adobe Creative Cloud (CC) を使っていますか？

私は毎日のように使っています。私のお仕事は主にウェブですが、まだまだ Adobe Creative Cloud を使う機会が多いです。ましてや、印刷の DTP の現場ではほとんどが Adobe アプリで制作されているのではないのでしょうか。

DTP の現場で Adobe アプリが多く使われているのは、DTP の技術の中心に PostScript・PDF という Adobe 発祥の技術があるため、Adobe アプリとの相性が良い、安定性が高いといったことがあります。また、DTP では分業をする場合も多いです。印刷業界で圧倒的なシェアである Adobe アプリを使用することで安定性を高めることや、コミュニケーションコストを下げるなどの合理的な理由があります。

DTP データの大原則は制作時と異なったバージョンで開かないこと

そんな Adobe アプリですが、以前のブログ記事「Adobe CC を契約していても CS6 は使用禁止？ さらに CC でも古いバージョンの使用を認めない方針に。」でも書いた

ように、現在では、Adobe Creative Cloud を契約が変更となり、Adobe CS6 (Creative Suite 6) をインストールできません。

Adobe Creative Cloud では現在、最近の 2 バージョンまでしかインストールできない仕様になったので、新規 PC/Mac をセットアップする時には、古いバージョンをインストールできなくなっています。

Adobe アプリで DTP をするとき、重要なことは「制作時と異なったバージョンで開かないこと」です。その理由は、制作時と異なったバージョンで開くと、文字組みの体裁や、図形の表現などが変更されてしまうことがあるためです。



画像出典：「令和」の環境に合わせた DTP データの在り方

Adobe 公式の情報でも紹介されていますが InDesign 2020 と、それ以前の InDesign では角丸の表現が異なります。こうした表現の変更は今までもありました。

データの制作者から次の工程のメンバーにデータを受